

教育目標		元気でよく遊ぶ、心あたたかい子どもを育成する ○心も体も元気な子 ○自分をいきいきと表現する子 ○互いを認め合い思いやる子 ○仲間とともに育つ子						
保育の視点		豊かな心を育む保育の展開 ー感動する瞬間を捉えてー						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	・成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	教育課程・研究推進	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの豊かな心を育む保育の実践 職員の連携を意識した保育の展開 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの感動する瞬間を捉えて、個の感動に応じてかわったり、環境を構成したりし、保育を実践していく。 保育の中にペア活動を計画的に取り入れ、子ども同士がかかわる姿から遊びを展開していく。 園内研究会を行い、互いの保育や環境構成を見合い教師の保育スキルの向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 感動カードを作成し、子どもの姿の読み取りや援助について教師間で共有する。 ペア活動について計画し実行する。 ペア活動や一つ一つの保育において各学年のねらいを明確にし、職員で共通理解しながらすすめる。 ペア活動後には課題や良かった点を出し合い、次の活動につなげ継続して取り組む。 学期に1回以上の園内研究会の実施。 共同研究園の研修に、担任が1人1回以上参加する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスの担任が感動した瞬間を捉えて、感動カードを作成したり、情報共有をしたりすることができた。しかし、感動カードについて振り返り、次の保育にいかすことができなかった。 ペア活動について昨年度の反省を踏まえ職員間で話し合い、計画的に実行することができた。そのことでクラスや学年を越えて自然にかかわりが増えてきている。 子どもの姿に応じて新しい異年齢活動にも取り組むことができ、子どもたちの育ちが感じられた。(※プレゼントや保護者アンケート参照) これまで以上に、異年齢や子ども同士の自然なかかわりから保育が展開されるよう、各クラスの子どもの実態や遊びの様子をこまめに職員間で共通理解していくことが必要だと感じた。 共同研究園の研修に参加できたことにより、自園の研究や保育にも取り入れることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 感動カードを職員間で共有し、保育のすすめ方や援助の方法について思いを出し合う。 異年齢の活動表を基に、子どもの育ちや今後の課題を職員間で振り返り、来年度の保育にいかせるようにする。 今年度新たに取り組んだ異年齢活動についても、良かった点や課題点を出し合い、来年度に活かす。 行事や大きな活動の前にはこまめに話し合いの場をもち、子どもの姿に合わせ環境や援助など臨機応変に保育を展開できるよう取り組む。 3年保育開始に向けて、3歳児についての理解を図る 	
	豊かな心・健やかな体	健康教育	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 広い園庭環境を活かした保育 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿や実態を把握し、その時期に応じて、ほげんの話(保健指導)を行う。また、その内容を基に、げんきカレンダーにも取り組む。 園内でのほげんの話、保護者に向けてのほげん日よりなど生活習慣について家庭でも考えられるよう啓発する。より意識して取り組むことができるよう、げんきカレンダーを実施する。 伝え合う力や、生活習慣の見直し、意識の向上につながるよう、保健室の環境整備や保育内容を工夫する。 子ども、保護者ともに互いに認め合える人間関係を築くことができるよう呼びかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> げんきカレンダー回収率100%を目指し、成果と課題を明確にする。 日々の生活の中で正しい生活習慣が身につく、子ども自身がその大切さに気づき、自らすすんで取り組もうとする。 教師間で、子どもの実態、遊びの内容の共通理解をする。また、戸外での活動を意識的に設定し子どもが体を動かす機会を確保する。 相手の立場に立って物事を考えたり、人のかかわり方を振り返ったりできるような場の設定。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの実態に合わせ、養護教諭と担任が連携し、ほげんの話をしたり、がんばりカードやげんきカレンダーの取り組みを行ったりしてきた。 その結果、家庭によって、げんきカレンダーの取り組みにばらつきがあり、今後、保護者への啓発についても考慮する必要がある。 今年度はプレ保育も始まり、ほげん日よりをはじめ、学期に1回の身体測定、長期休業のげんきカレンダーの作成、在園児が育てた野菜を食べる機会を設け、関わってきた。 今年度は、保育室の環境整備がおろそかになってしまった。 日々の保育の中での細やかな指導を今後も意識して取り組んでいく。 引き続き身体を使い方や運動の基礎を身につけられるよう保育を考え、園にある教材も使いながら取り組む。また、家庭への啓発を行い保健活動にもつなげていく。 育てた野菜を子どもたちと一緒に食べたり、実際に調理したりすることで、おいしさや育てた達成感を共有し、大切に育てる気持ちにつながった。 引き続き人権・性的マイノリティーなどについて職員で考え意識するとともに、その意図を保護者にも伝えていく必要がある。 職員全員が連携し、子ども一人一人の育ちや課題を共通理解しながらかかわることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭、担任が連携し、毎回の取り組みを継続して行うことができるよう園全体で心がけていく。 再度、生活習慣の大切さを保護者にも啓し、ほげん日よりやげんきカレンダー通信等の発行を通して、保護者の意識向上につなげていく。 健康教育について、定期的なHPの更新を心がける。 保健室前の掲示板の活用。ほげんの話で使用したものや自分の身体について興味をもてるように、視覚教材を活用しながら、掲示板上に掲示したりしていく。 週案に保健の枠を組み込み、見直しをもった計画や保育内容を共通理解できるように取り組む。 子どもの課題や成長に合わせて、遊びの内容や今後の活動について細やかに話し合いながらすすめていく。 学級懇談などで職員の意図を伝え、保護者の方も人権について考える機会になるような場をもつことで保護者啓発を行っていく。 コンサルテーション、巡回相談など園以外の他機関とも連携し、子ども一人一人の課題を明確にしていく。
	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 人のかかわりや伝え合いに視点を置いた保育実践 	<ul style="list-style-type: none"> 飼育、栽培の機会をもち、収穫の喜びや命の尊さ等を共有していく。 子ども同士のつながりや一人一人の育ちにつながるよう支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分達で育てた野菜をみんなで食し、おいしさや喜びを共有する場の確保 子どもの姿に応じて、具体的な支援方法や保育内容を検討し、実践する。また、保護者とも連携し、園の取り組みを伝えることのできる環境を整える。 		<ul style="list-style-type: none"> プレ保育・預かり保育については、1学期に1度公開を行う事ができた。 職員同士がプレ預かりについて、共通理解するために、1学期、試行錯誤した。最終、月1回の話し合いの時間をもつことでお互いに共通理解ができてきた。 昨年度に引き続き、保護者向け絵本の読み聞かせや貸し出しを行うことができた。 HPはなかなか更新できなかった。HPを見ていない保護者が多い。HPだけではなく、日頃からの発信を大切にしていくことで、園が大切にしていることや、園児の様子を発信することができるのではないかと。 宝塚市の職員と共に劇遊びを見合い、他市の取り組みを知ることができた 	<ul style="list-style-type: none"> プレ保育・預かり保育も2年目となるためさらなる充実に向けて引き続き、園全体で意識して取り組んでいく。 保護者負担の軽減のため、PTAの役員活動や一人一役・参観日の回数内容を見直していく 今後は共に幼児教育を担っていく立場として荻野保育所と園内研究会などをともにしていく。 業務改善とともに、残すべき行事等の精選を行っていく必要性を感じる(先生達の様子をもっとアピールしていく) 	<ul style="list-style-type: none"> 参観日の意図を伝えることで、前向きに参加できる。
開かれ信頼される学校園	保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 教育への理解へと繋がるような保護者、地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 預かり・プレ保育試行のため、さらに地域とのかかわりを深め、保護者、幼稚園、第三者と一緒に子どもの成長を見守っていく体制を整える。 HPや園長通信を通し保育の様子を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 預かり・プレ保育の公開を学期に1度行う。 地区社協行事には、職員が必ず1名以上参加する。 保護者がいつでも絵本を借りることができるよう職員室前に絵本棚を設置する。 HPは月1回以上の更新をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 園庭の安全管理、清掃などは保護者や地域の方にさせていただくだけでなく、園児も共に活動することで、自分達で園を作り上げようという気持ちにつながった。 安全点検は、計画的に行うことが難しかった。リスク回避の視点から改め予防策に努めていく必要がある。 次年度に向け、新しい職員体制でも、子どもたちの安全管理によりいっそう努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児が自分達で環境を整える気持ちをもてるよう、今後も積極的に取り組む。 週案の話し合い時に安全点検の予定を確認し、計画的に予防に努める。 	
その他	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 安全で過ごしやすい生活の場としての環境作り 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検日を年間計画に取り入れ園だよりにも記載し、職員の意識向上に努める。 様々な場面を想定した避難訓練を行い、安全について子どもと考える機会を設ける。 遊びの後には、子どもと園庭清掃を行う。 保護者と共に安全な環境づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の目で日頃から安全点検に努める。遊具や用具、園庭や保育室内を常に安全に保つ。 2か月に1回以上の避難訓練の実施。子どもが自分で自分の身を守る方法を知る。 子ども自身も意識し、園全体としてきれいな園を保つ。 参観日毎に、園庭清掃などの活動に取り組む。 	B			

